

令和2年度自治体国際協力促進事業（モデル事業）

NGO との協働による国際協力活動  
（福祉分野）と松山市の  
ESD/SDGs 推進事業  
（フィリピン共和国ロドリゲス市）



松山市

## 1. 事業実施に係る経緯

松山市のNPO法人Community Lifeはデイサービス事業所を運営しており、平日の放課後や休日に学習支援や絵画教室、公園遊びや買い物・調理、バス・電車等での外出などを通じて、障がいのある子どもの地域生活を支えている。また、平成28年1月から平成30年12月にJICA草の根技術協力事業「障がい児（者）のエンパワーメント獲得のための支援技術者育成プログラム」として、フィリピン・ロドリゲス市で現地のNGOや行政と協力しながら、障がい児（者）を支援する技術者の育成を行ってきた。当該事業は今後、ロドリゲス市役所の保健局と社会福祉開発課へ引き継がれ、障がい福祉に関する制度と新サービスの創設が予定されており、福祉技術の維持・向上のため引き続き支援が必要な状況である。

そこで、松山市と（公財）松山国際交流協会、NPO、教育機関が協働することで、NPOの継続的な福祉技術支援活動を支えるとともに、当該活動を国際理解ESDの題材として活かし、自治体におけるSDGsの導入・推進を図るモデル事業として展開できると考え、本事業の実施に至った。

## 2. 事業の目的

本事業は、松山市と（公財）松山国際交流協会、NPO法人Community Life、NPO法人えひめグローバルネットワークなどの国際交流活動実践者や教育関係者、福祉関係者で実行委員会を組織し、2ヵ年での実施を計画した。

1年目の令和元年度は、松山市から現地へ専門家を派遣するとともに、ロドリゲス市の福祉行政関係者の研修生を受入れ、福祉技術の支援協力を行い、ロドリゲス市の障がい者福祉の拡充・向上を目指した。

併せて、松山市内の小学校等でこの取組を題材に国際理解を切り口としたESD（持続可能な開発のための教育）を行い、ESDのモデルとして活かすと同時に、SDGsを推進していくための連携ネットワークづくりを行った。

2年目は、フィリピン・ロドリゲス市との福祉技術支援活動のフォローアップと小学校等での国際理解ESDを継続しつつ、SDGsを推進するための教材冊子を作成し、将来にわたり継続的に国際理解ESDとSDGsを推進することで「持続可能なまちづくり」の視点を持った人材の育成を行うことを目的とした。

## 3. 事業内容

### （1）国際協力事業（フィリピン・ロドリゲス市への障がい児（者）支援）

フィリピン・ロドリゲス市への障がい児（者）支援については、本事業が終了した後もロドリゲス市の行政や地域の団体および関係者が連携して、障がい児（者）支援を継続して実施できるよう、具体的な活動プランを立案していく

支援を行うことを目標としていた。そのため、2年目の今年度は現地への訪問や本市への受入などの人的往来を行うことなく、eメールやFacebookなどを使ってのアドバイスや進捗の確認を行うことを計画していた。この計画は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により往来ができないという現在の状況に、図らずも適したものとなった。

#### ①フィリピン・ロドリゲス市の状況

マニラ首都圏やロドリゲス市を含むルソン地域では、新型コロナウイルス感染症の対策で令和2年3月中旬からすべての学校が休校となり、その後ロックダウン（都市封鎖）や移動の制限がレベルを変更しながら継続されている。公立学校の授業は令和2年10月からオンラインで始まり、令和3年2月現在は移動制限のレベルは緩和され、マスクの着用等を条件に移動は自由に行える状況である。

また、令和2年11月11～12日に台風22号（フィリピン名：ユリシーズ）がロドリゲス市を直撃し、市内各所で洪水が発生し家屋が浸水するなど甚大な被害を受け、新型コロナウイルス感染症拡大も収まらない中、災害復旧対応にも追われる状況となった。昨年度に本事業で訪問した障がい者支援団体が活動する地域でも建物が流されるなど被害が大きく、住まいや家財を失い非常に困難な生活を余儀なくされている被災者が多く出たことから、主に障がい児（者）のいる家族を支援する目的で募金活動を行った。集まった寄付金を現地へ送金し、食糧や衣料、家屋を修理するための資材を購入し、ロドリゲス市の障がい者支援団体を通じて支援が必要な家庭へ届ける活動を行った。



(左)  
台風が直撃した  
ロドリゲス市内  
の様子



(右)  
障がい児がいる  
家庭に支援物資  
を届けた

#### ②ロドリゲス市の障がい児（者）支援の状況

<ロドリゲス市社会福祉開発課（MSWDO）>

本事業のロドリゲス市側カウンターパートの一つである社会福祉開発課（MSWDO）の所管事業として、昨年度ロドリゲス市で創設された障がい者手当制度は令和2年に2回給付された。その他の障がい者の生計を向上させるプログラムは新型コロナウイルス感染症の対応が落ち着けば再開する予定であ

る。

また、障がい児のケアワーカーの育成のため、障がい児の発達状況に応じた指導計画プログラムに関して問い合わせがあり、松山市の早期療育の評価方法など伝えるなどアドバイスを行った。

障がい児のデイケア施設が令和2年に開設される予定となっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年の予算に再度組み入れる予定となった。

<ロドリゲス市保健局（MH0）>

もう一つのカウンターパートである保健局（MH0）とはCBR（Community-Based Rehabilitationの略で、主にハード関連予算が乏しい発展途上国の福祉活動で取り組まれている、地域に根ざした障がい者支援の方法）の活動に取り組んでいたが、保健局は新型コロナウイルス感染症対策の最前線となり、その対応や住民への支援が優先事項となったことから、障がい者への支援に関する施策は保留となった。保健局は新型コロナウイルス感染症の患者が療養する場所であるとともに地域医療の拠点となり、市内の地域に出向いて新型コロナウイルス感染症予防に関する指導が行われた。

## （2）国際理解事業（国際理解ESD）

松山市とNPO法人えひめグローバルネットワークは、平成21、22年に本助成事業の採択を受け「国際交流・国際協力に基づくESD教材・カリキュラム開発事業」を実施した。この取り組みの成果として、（公財）松山国際交流協会では平成23年度から「ESDコーディネーター派遣事業」を開始した。この事業を活用して国際理解を切り口としたESDを実施するとともに、SDGsの視点を取り入れた授業を展開した。

- ・実施校数：松山市内の小学校5校計13回
- ・ESDの専門家であるNPO法人えひめグローバルネットワークを学校へ派遣し、頭で理解するだけでなく実際に行動に移す活動やSDGsの視点を取り入れた授業の支援を行った。SDGsの視点を取り入れる際には、本事業で作成した教材冊子を活用した。
- ・本事業でフィリピン・ロドリゲス市との国際協力事業を担っているNPO法人Community Lifeや愛媛大学教育学部の大学生などと連携し、学習や活動をより身近な内容のものとして感じる工夫を行った。

学校	主な内容
味生第二小学校	・世界の国々の文化や生活の様子、SDGs ・フィリピンの現状について
新玉小学校	・モザンビークの言語、文化、国際理解、国際協力 ・世界の格差、暮らし、社会、貿易ゲーム、SDGs

雄郡小学校	・「わたしにとって平和の色は」 ・身近な平和・世界の平和、SDGs
北条小学校	・モザンビークと世界の平和について
清水小学校	・ちがう国でも同じこと（自然、国際理解、モザンビーク支援、SDGs）



小学校での ESD 授業

### (3) 教材冊子作成事業

#### ①教材冊子作成

本事業で1年目に実施したフィリピン・ロドリゲス市との福祉支援交流や、本市におけるこれまでの ESD の活動を基に、身近な事例を用いることで SDGs を易しく理解できる、小学校高学年を対象とした教材冊子を作成した。教材冊子は、愛媛大学教育学部の准教授を始め、現役の小学校教員や NPO/NGO の役員、国際交流協会の職員など各分野の専門家が制作委員として執筆を行った。

また、内閣府の「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」のマッチングを活用して SDGs の教材冊子に関する協力をリクエストしたことで、株式会社学研プラスとともに作成することができた。

制作期間	2021年6月末～10月
制作委員	6名（大学教員、小学校教員、NPO 法人役員、国際交流協会職員等）
規格等	B5、全20ページ、フルカラー
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っているかな？SDGs17</li> <li>・身の回りでSDGsを見つけてみよう</li> <li>・世界とのつながりを考えよう</li> <li>・あなたもSDGsを考えてみよう ほか</li> </ul>

教材冊子の作成にあたっては、「児童生徒が分かりやすい」ことはもちろん、「この教材冊子を使って授業を行う指導者も使いやすい」ものにすることを目指し、今後も継続して SDGs の学習に取り組めるよう、学校での SDGs の授業の進め方やこの冊子の活用についての「指導者用手引書」も併せて作成した。

## ②周知・広報および研究活動

松山市民やESD/SDGsに関する取り組みに関心のある人が集まるイベントやセミナーなどの機会を捉え、本事業での取り組みの紹介や作成した教材冊子の周知・広報を行った。

- ・まつやま SDGs フェア

主 催：松山市 SDGs 推進協議会

開催日：令和2年10月24、25日

- ・令和2年度大学連携セミナーESD 授業づくり研修会（第3回）

主 催：愛媛大学 ESD ラボ

開催日：令和2年10月24日

- ・令和2年度地域国際化ステップアップセミナー

主 催：(一財)自治体国際化協会 市民国際プラザ

開催日：令和3年1月28日

- ・四国 ESD フォーラム 2021（日本 ESD 学会第2回四国地方研究会）（予定）

主 催：四国地方 ESD 活動支援センター、環境省中国四国地方環境事務所四国事務所、日本 ESD 学会、愛媛大学 ESD ラボ

開催日：令和3年3月14日



令和2年10月に完成した冊子(一部)

### まつやまの世界とのつながり

#### フィリピンのロドリゲス市と 障がい者の福祉活動

JICA（国際協力機構）の活動で、フィリピン・ロドリゲス市の障がい者と出会ったことが、国際協力・障がい者支援活動の始まりとなりました。車いすやバリアフリーの設備は日本よりも整っていません。障がいがある子どもは学校に行くことが難しく、家に引きこもりがちになります。でも現地の人たちは、困った人を見かけると、すぐ助けようとする素直な気持ちをもっています。おたがいのよいところをおきない合いながら、障がいのある子どもの地域生活を築いています。

フィリピンの人たちとの交流をこれからも進めたいと思います。  
〈特許〉Community Life  
松本光司さん

初めの海外でしたが、みんな明るくお話を聞いてくれて、とても楽しかったです。

▲制作撮影士が、リハビリ定かねて折り紙を教えます。  
▲現地を案内する用バイクタクシーで撮影した〈特許〉ぶらぶらしての川崎さん。

#### アフリカのモザンビークと 平和とエコの支援活動

2000～2012年までにモザンビークに松山市の放棄自転車を送り、内戦で壊れた線と交換して平和な国づくりをする「線を継ぐ」プロジェクトを推進しました。2008年にはゲフザ大爺（当時）が友好と交流に感謝して松山を訪問し、市民と交流。2017年はモザンビークに公民館を建て、学校も訪問しました。武蔵もごみもない平和なまちづくりに取り組んでいます。

人口 約2950万人(2018年)  
国 津 約30万人  
公用語 ポルトガル語  
首都 マプト  
GDP 約144億円(2018年)

◀回収された武器は、二度と使えないよう切断され、アーティストにより平和をうたえる武器アートによるみえりします。

▶モザンビークのSDGsツアー参加者。開発が進む都市部と電気、水などが整っていない農村部を訪問します。

フェアトレード商品開発も  
行っています！  
〈特許〉えひめグローバルネットワーク 竹内よし子さん

冊子の中でNPO/NGOの取り組みを紹介

#### 4. 成果と課題

- ・本事業では、NPO/NGO、大学、小学校等の教育現場と、国際交流協会のそれぞれの既存の活動をSDGsというキーワードで結び付けて一つの事業として展開し、同じくSDGsに関する内閣府のプラットフォームを通じてマッチングを活用したことで、かなり安価な予算で事業を実施できたことは大きな成果である。
- ・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行という状況下において、これまでの方法・手法が適用しない事態になったとき、SDGsの「持続可能な発展」という事が、新たな展開を考えるうえで重要なキーワードとなっていることが、本事業にとっては追い風となった。

#### <国際協力事業>

- ・今年度ロドリゲス市で実施予定であった障がい（児）者支援に関する取り組みは、新型コロナウイルス感染症や災害の対応が優先事項となったため、延期となったものもあるが、基本的には新型コロナウイルス感染症等への対応が落ち着けば取り組みを再開する意欲があるとの事であり、その支援が今後の課題である。

#### <国際理解事業>

- ・本事業を通じて、NPO法人えひめグローバルネットワークと国際協力事業を担ったNPO法人Community Life、愛媛大学教育学部が連携して学校での国際理解ESD/SDGsの導入に取り組み、今後も継続して連携できるネットワークが出来たことが成果の一つである。
- ・ESDやSDGsの推進を担える団体や人材の育成が必要であることが分かった。

#### <教材冊子作成事業>

- ・学校や教育関係者との連携やSDGsの導入方法がこれまでの課題であったが、本事業でSDGsの導入に効果的な指導者用手引書を作成したことにより、今後、教育現場が主体となって教材冊子を活用してSDGsの導入を行いやすくなったことは大きな成果である。

## 5. 今後の展望

教材冊子を活用しながら継続してESD/SDGsに取り組み、「持続可能なまちづくり」の視点を持った人材の育成に繋がりたい。

## 6. 他の自治体の参考となると思われる点

- ・国際協力や国際交流の事業実績を題材としてSDGsに関する取り組みの推進へ繋げることで、既存事業の成果検証となるとともに、自治体におけるSDGsに対する取り組み推進に寄与すると考える。
- ・自治体におけるSDGsに対する取り組みの推進が求められる中、民間との連携によって複数の課題を同時解決するモデルとして汎用性が高く、今後、SDGsに対する取り組みの普及拡大に効果的と考える。

(参考) 松山市ホームページ



現在のページ > 松山市ホームページ > 報道資料 > 2020年11月 > 「～まつやまから持続可能な世界へ～みんなが完成しました」

**「～まつやまから持続可能な世界へ～みんなが始めよう！未来のためのSDGs」が完成しました**

更新日：2020年11月16日

**発表内容**

**目的**

国際協力・国際理解推進実行委員会は冊子「～まつやまから持続可能な世界へ～みんなが始めよう！未来のためのSDGs」を作成しました。

SDGsとは何か、なぜ今取り組む必要があるのか、私たちにできることは何かなどについて、松山市の状況や身近な事例を題材に、子どもたちがSDGsを理解しやすい内容です。

今後、小学校やイベントでSDGsを周知啓発するなど役立てます。

同委員会は松山市、(公財)松山国際交流協会、NPO法人、教育関係者などが参加し、制作に(一財)自治体国際化協会の助成事業(モデル事業)の助成を受けています。



**規格**

B5版 20ページ 全ページカラー

**内容**

- 知っているかな？SDGs17
- 身の回りでSDGsを見つけてみよう
- 世界とのつながりを考えよう
- あなたもSDGsを考えてみよう